

【特集】

学校・家庭・地域が一体となった「いじめ」や「不登校」などへの対応

子どもが健やかに育つ

環境を醸成しよう

市教育委員会は、市内の学校における「いじめ」の状況と課題を的確に把握し、その問題に対する取り組みや学校内の体制の再確認を進めています。「いじめ」や「不登校」などに、早い段階で気づき、未然に防止するためには、学校と家庭、地域が連携し、この問題に取り組む必要があります。取り組みを通じ、子どもが健やかに育つ環境の醸成を目指します。

■問い合わせ〃市教育委員会事務局学校教育課（江刺総合支所 内線427〃429）

いじめに対する緊急調査

■アンケートの実施

市教育委員会は、ことし8月、市内の小・中学校に対し「いじめに関する緊急調査」を実施しました。この調査は、それぞれの小・中学校で実施したアンケートの結果をもとに、県教育委員会が示した調査項目で整理・分類たもので

す。（表1）

■アンケートの調査結果

各学校からの報告内容を整理した結果、項目の中で最も多くの傾向として表れたのが、小学校、中学校ともに「冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」でした。これは、報告があった全ての項目のうち、小学校では約5割、中学校では約6割を占めています。また「仲

間はずれ、集団による無視」が小学校、中学校とも多い傾向を示しています。

そのほか、小学校では「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」も上位を占め、一方、中学校では「嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする」という項目が上位を占めました。



【表1】「いじめ」の態様（アンケート結果をこれらの項目に整理）

- ①冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- ②仲間はずれ、集団による無視をされる
- ③軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ④ひどくぶたれたり、叩かれたり、蹴られたりする
- ⑤金品を要求される
- ⑥金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- ⑦嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- ⑧パソコンや携帯電話のサイトで、誹謗中傷や嫌なことをされる
- ⑨その他

※この項目は、全国的ないじめの実態についてまとめるため、県教育委員会を通じて示され、報告を求められたもの

今回の調査は、ひとつ間違えば「いじめ」になりうるささいなことでも捉えるような項目が設定されたものです。これにより、多くの事例が報告され、あらためて問題の複雑さと、緊急的な対応の必要性が明らかにになりました。

■アンケート結果を受けた対応

市教育委員会では、各学校から調査結果の報告を受け、その全ての事案を一つ一つ詳細に確認しました。その結果、児童・生徒が学校生活を送るうえで重大な問題と認知し、緊急的に対応が必要と判断したものが1件ありました。そのほか、8月時点で継続的に指導を行っているものもあり、学校と教育委員会、さらには市福祉課などの関係機関と連絡を取りながら問題解決に取り組んでいます。

調査したうえでの確に対応することが重要になります。

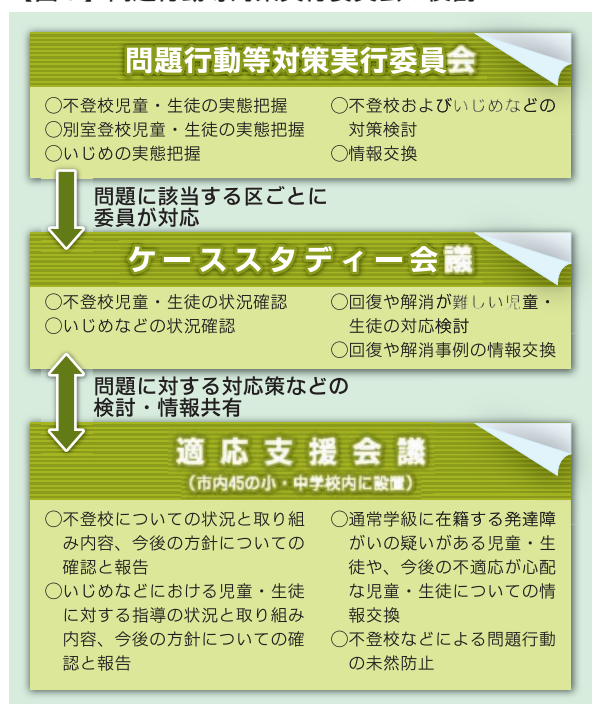
「いじめ」や「不登校」などが起こる要因として、家庭環境の問題や子育てに関するトラブルの増加、児童・生徒のコミュニケーション能力の低下、障がいのある児童・生徒に対する理解不足など、学校だけの解決が困難なケースが増えています。

「問題行動等対策実行委員会」の設立

このようなさまざまな要因に的確に対応するため、市教育委員会は10月23日、これまで設置していた「不登校対策実行委員会」の役割を拡大し、名称を「市問題行動等対策実行委員会」（会長・佐藤孝守教育長）としました。これにより、関係機関が連携し、いじめ問題に取り組む体制を構築しました。（図1）

これまで対応してきた「不登校」の問題に加えて、「いじめ」などの問題にも取り組むこととし、名称の変更だけではなく、機能や役割を大幅に強化したものです。また、さ

【図1】問題行動等対策実行委員会の役割



さまざまな機関が連携することで、多角的な解決方法を出すことが期待できます。同委員会は、年2回の会議を行い、さらに、委員による「ケーススタディー会議」を開催。そこで各学校の取り組みについて情報交換を行います。個々の問題について、よりよい解決方法を見いだし、それぞれの対応に生かすことにしています。



第1回市問題行動等対策実行委員会（10月23日）